

## 当院回復期病棟でリハビリテーションを行われた方へ

当院リハビリテーション科では、より効果的なリハビリテーションを提供できるように自宅訪問を実施した患者様のデータを使用して研究を行っています。

研究課題	当院回復期病棟で行っている自宅訪問の取り組み ～自宅訪問の有無によるFIM 利得への影響について～ ：カルテ記録を用いた後方視的研究
情報の利用目的及び 利用方法	<p>この研究は、自宅訪問を行った患者と行えなかった患者の日常生活動作（FIM）の点数の改善に違いがあるかを検討する事と、自宅訪問が退院先にどのように影響するか等を検証するために行います。</p> <p>氏名等の個人が特定される情報は使用せず、学会で統計の結果を公表する際には個人が特定出来ないような形で使用させていただきます。</p> <p>この案内をお読みになり、ご自身又はご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方でご質問がある場合やこの研究に診療情報を使って欲しくないとのご意志がある場合は、遠慮無く下記の担当者までご連絡ください。お申し出による不利益は一切ございません。</p>
対象者及び対象期間	研究対象者：2023年11月から2024年7月までに当院7F回復期病棟に入棟してリハビリテーションを実施された後に退棟（退院）された患者様。
利用する情報の項目	自宅訪問を行った件数と各患者様のFIMの数値、再入院の有無
利用者の範囲	済生会唐津病院 リハビリテーション科 作業療法士 諸岡健志
問い合わせ先	済生会唐津病院 リハビリテーション科 作業療法士 諸岡健志
情報の管理についての責任を有する者	済生会唐津病院 リハビリテーション科 作業療法士 諸岡健志
備考	